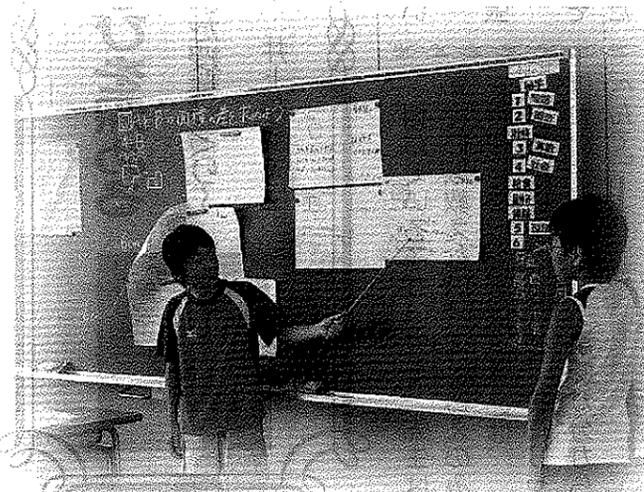


はじける ココロ

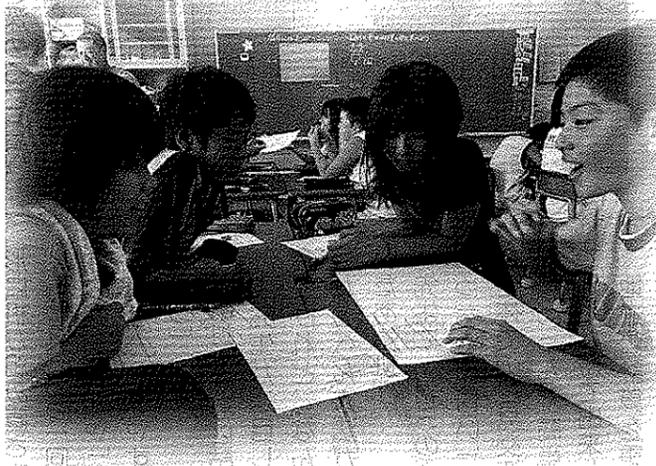
vol.29

まいにち学校
まいにち街の中
こどもの笑顔に
つなげる

リニューアル
したよ!!



意見交流をもとに発表
「こうやったら簡単に計算できます」



小グループで意見交流
「すごいこと思いついた」

げんげのとは：運華草が生い茂った草原のこと。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を咲かせます。また、れんげ草は緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子どもたち一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。

- | | | |
|------|---|-------|
| 特集 1 | 「分からない」が学びを深める
～子どもの意見が位置づいた授業づくり～ 萱野小学校井上善嗣先生 | … 1 P |
| 特集 2 | 教えて新箕面市人権教育基本方針 教育長にインタビュー | … 3 P |
| 連載 | わたしの人権教育 豊川南小学校 大濱淳子 | … 5 P |
| | 学校のお宝発掘！「OSAKA人権教育ABC」 | … 5 P |
| | 考えてみよう「わからないってこと」かわのひでただ | … 6 P |
| | 聴かせてよ「子どもの気持ち」 | … 7 P |

聴かせてよ 子どもの気持ち

今、箕面子どもたちはどんなことに喜び、イヤだと感じ、何を望んでいるのでしょうか。学校や保護者・地域が、子どもの気持ちを受け止めることは人権教育の取組を進める上でとても大切なことです。

今回は、夏季休業中にらいとびあ21で小学校から中学校3年までの子どもたちにインタビューを行いました。子どもたちが答えてくれた意見を紹介します。たくさんの気持ちを聴かせてくれたみなさん、ありがとうございます。

手を骨折したとき、みんなが優しくしてくれた。(4年)

小学生になって友だちがふえてよかった。(1年)

あかと分かっていても、友だちにちょっかいをだしてしまっけんかになる。(4年)

友だちが自分か持っていないもので遊ぶので、遊びについていけない。(6年)



体育館で放課後遊べるのがうれしい。もっと時間を増やして。(4年)

先生が女の子に優しい気がする。(4年)

おじいちゃんが一番暮らしになった。掃除とかできることを手伝ってあげたい。(6年)

自分の思いをうまく言えず、言い負かされる。(4年)

学校のトイレがきれいになった。床もピカピカだし、自動で電気もつく。(4年)



授業をしっかり聞いていたら先生に「成長したなあ」とほめられた。(中3)



一人でごはんを食べることがけっこうある。家族みんなで食べるとカップめんでもうれしい。(4年)

編集後記
「はじける」を差し出しな
がら「先生、お茶ー」先
生は、お茶ではありま
せん。私の言葉の意
味と、この本を読み取
ると、お茶を飲むこと
も、大人が予測・行
動し、子どもが言葉
を奪い取ってしまっ
ていることは無いの
か、考えたい。場
面だ
った。
(市民委員) 小関政子

新方針の策定にあわせ、「はじける」の紙面も大幅にリニューアルしました。「わたしの人権教育」や、新教材の紹介など、新コーナーが始まっています。おすすめの取組や本、ご意見、ご感想などありましたら下記連絡先までお寄せ下さい。
(事務局) 守婦朋子 (市民委員)

新方針の策定にあわせ、「はじける」の紙面も大幅にリニューアルしました。「わたしの人権教育」や、新教材の紹介など、新コーナーが始まっています。おすすめの取組や本、ご意見、ご感想などありましたら下記連絡先までお寄せ下さい。
(事務局) 守婦朋子 (市民委員)

人権教育推進会議情報誌 『はじける ところ』

発行 箕面市人権教育推進会議
箕面市教育委員会
人権教育課 TEL 072-724-6921 FAX 072-724-6010
e-mail: edujinken@maple.city.minoh.lg.jp
平成23年(2011年)9月
人権教育推進会議委員

八木晃介、河野秀忠、蒲隆夫、安東由紀子、小島敦子、西村和浩、上田晃江、守婦朋子、永田千砂、小関政子、奥谷俊彦、結城美保里、卯滝勢津子、山下晴久、山北智、森崎直幸

教えて「新箕面市人権教育基本方針」

今年度改訂された新箕面市人権教育基本方針、みなさんもう読まれましたか？ 今回は、「実際の教育にどういかされるの？」といった声にお答えして、箕面市人権教育推進会議の永田委員が森田教育長と南山人権教育課長にインタビューを行いました。

(永田委員)
新しく変えるというところで、ここは前と違うという点を教えてくださいませう。

(森田教育長)
本市では小中一貫教育に取り組んでいます。中学校卒業までに子どもたちにとんな力を付けていくのか、取組みを関連付け、系統的に進めることが大切です。前の方針では人権教育の理念のもとに、それぞれの学校が特色の違いを活かし進めてきました。新方針では、人権が教育活動のベースになる部分である理念は大事にしなから、子どもたちにしつかりと力を付けていくために、学校園所で取組む内容をもっと具体的にしています。

(永田委員)
力をつけていくという「力」とは具体的に何を指しているのでしょうか。

(森田教育長)
おおもとはやっぱり「生きる力」ですね。子どもたちが自分で物事を考えて課題を解決していくこととする、いろいろと難しいこの時代を生き抜く力をつけていく



ことで信頼感や安心感が生まれる。そういう関係が教師と子どもたち一人ひとりの間にできることで、子どもどうしのつながりも出てくるのだと思います。そのためには、ひとりの人間として子どもたちに向き合うということが非常に大事なのではないかと思えます。



(永田委員)
教職員と子ども以外のつながりはどうお考えですか。

(南山課長)
保護者の中には大変しんどい辛いことを抱えている方もおられると思います。どうやって子どもを育てたらいいのか誰にも相談できず、先生に相談する。話し方もついつい強い口調になってしまうかもしれない。それを教職員が「責められた」と捉えてしまう。そうではなく、この子を大切にしたいという思いからの行動であると思えたら親に寄り添うことが出来る。教職員として、保護者の思いをどう受け止めるかというところがつながりを作っていくことが大事だと思います。

それ以外にも、保護者どうしや、保護者・地域と子どもがつながれる場が学校にあつて、さまざま人のコミュニティの中心になっていけばいいなと思います。

(永田委員)
実際に学校でどのような方針を生かしていくのですか。

(南山課長)
一つは、つながりを教育のあらゆる場面で作る事です。算数の授業でも、子どもどうしの話し合いをどう作るか、子どもの発言をどう受けるかなど、授業の中で工夫することでいろんなつながりを作っていくかと思

というのが大事だと考えています。そして、「つながる力」。つながろうという気持ち、友だちを大事に思う気持ち、友だちの痛みを分けることなどが一番基本になると思っています。

(永田委員)
今の子どもたちの「つながる力」をどのように捉えていらっしゃるのでしょうか。

(森田教育長)
うまく自分の思いを表現できない、伝えられない子が増えていきます。自己紹介する時に、自分について何も話せないでまってしまう子どももいます。「コミュニケーション」の力が弱くなっている背景には、子どもたちが生活経験を十分に積めていないということがあると思います。

(永田委員)
「生きる力」、「つながる力」や「思いを表現する力」が弱くなっているのはなぜだと思いますか。

(南山課長)
子どもがつながる必要を感じていないということじゃないでしょうか。便利な世の中になって、自分が困る前に親が手を出して

新学習指導要領では言語活動の充実が重視されていますが、言語活動とはまさに言葉による「コミュニケーション」ですので、授業研究などの中でつながるといふことを柱にして欲しいと思

もう一つは人権課題についての学習をしつかり行うことだと思います。その中でさまざまな立場の人のことを考え、子どもどうしが意見をやりとりすることが大切だと思います。

このような学習を通してつながることへの意欲を高め、その意味を理解し、つながるためのスキルを身につけていくことが重要だと思



(永田委員)
最後に、大切だと思われることを三つずつお願いします。

しまつて困らないとか、テレビを見ていたら情報が何でも入つてきて、受けるだけになっている。集団で遊ぶ子どもも少なくなっています。

(永田委員)
小さい頃は外に出たらいろんな子と一緒に遊んでましたもんね。少し話は変わりますが、新方針の「つながり」とは具体的にどのようなことですか。

(南山課長)
つながる楽しさ、心地よさや意味を子どもたち知ってほしい。それが分かれば、今度は自分がつなげる役をしていて、新しい集団に入ったときに新しいつながりを築いていくことが出来ます。そういう子どもたちが社会に出て行つていった時に、さまざまなところで多様なつながりが生まれるのではないのでしょうか。

(永田委員)
そのためには、具体的に誰と誰とのつながりが大事だと思いますか。

(南山課長)
学校でいうと、まず子どもと教職員です。子どもの立場に立つて、子どもの話や気持ちを聴く

(森田教育長)
子どものごことを認めごを伸ばすかというのは大変大事なことでも今も昔も変わりません。そういった姿勢で一人ひとりを大事にしなから良さを見つけ、集団の中で位置づけることが大切だと思

(南山課長)
「差別の現実に学ぶ」ということをしつかりと考えていかなければいけない。無意識に差別してしまっていることはないだろうかと内省的に物事を考えることが大切で、そのためには、相手の物差し、物の見方に寄り添うことが必要だと思います。

新方針には人権教育を進めるための方策が多く書かれています。それらを活用することも、教職員自身が自分の人格や人間性を高めていくことが大切だと思

(永田委員)
先生と一緒に私たちがどれだけ汗をかかせてもらえるかということも大事だと思いますので、これからもよろしくお願いします。ありがとうございます。

(一)同)ありがとうございました。

わたしの人権教育

豊川南小学校 大濱淳子

温めあつ集団を 授業でつくりたい

子どもたちは、毎日重い荷物を背負って、学校に通ってきます。決められた席に座って、ちゃんと私を待ってください。みんなありがとーその中の一人になったつもりで黒板に向かって座ってみると…。わかりたい、認められたい、伸びていきたい、という子どもたちの声が聞こえてきます。でも、「休み時間またひとりかな」「何をやってもどうせみんなの方がうまい」と、不安なしんどい気持ちで座っている子どもいると気づきます。



乱暴な言動でしか自分をアピールできなかったり、がんばりきれず適当に済ませてしまったりする毎日が続くと、自分の力を伸ばすチャンス逃し、自信を失い、棘でいっぱいになったりしてしまうかもしれません。

そんな状況を変えるのは、やはり日々の授業です。授業中、友だちを揶揄する発言を許さない（誰かを下に見て優越感を味わう感性は悲しいことです）。子どもたちの知的好奇心に応える内容を含む（新しいことがわかるととても気持ちがよくありますから）。そして、子ども同士がやりとりする場面をつくる（子どもたちは、活躍したい、自分の考えを言いたい、という気持ちでいっぱいです）。授業という枠があるから、先生がいるから、安心して自分の考えを伝えられます。いろいろな友だちの発言を聞くことでお互いの固定的な見方も和らぎます。グループでの話し合いを入れた授業の後で、こんな感想を書いてくれた子がいました。「いろいろな話せて楽しか

った。みんなの心が一つになったみたいでほかほかしました」「私のチームは、ほとんどしゃべらないう子だらけで、きちんとしゃべれるかな？と不安があったけど、チームのみんなが話を聞いてくれたので、話せてよかったです」。

友だちといっしょにやって賢くなった、新たなチャレンジができた、という達成感が、一人ひとりの自己肯定感を育みます。人と比べて誰かを下に見る、悲しい心は小さくしほみ、友だちの成功を喜ぶ、温かい心が膨らんでいくことでしょう。そんな温めあつ集団の中で過ごせたら、いろいろな状況の中で自己肯定感が弱くなっている子ども、もうちょっとがんばってみよう、と前向きな気持ちになることと思います。

社会が変化し、学校を取り巻く様子も難しいものになっています。願う通りにいかないことも多々ありますが、子どもたちや職場のかまと力を合わせて、どの子どもができるクラス、学校をめざしたい。気になるあの子になって教室に座っているイメージから、日々の授業づくりに臨みたいと思えます。

学校のお宝発掘

「OSAKA人権教育ABC」
（大阪府教育センター H19）

「人権教育ってなんだかむずかしい」「どうやって取り組めばいいんだろう」といった内容に「一気に答えてしまおう」というのが本書。「そんな無茶な」と思われた方、騙されたと思って一度ページを開いてみてください。

1章には、「現実から出発する」「人権問題を生活と結びつける」といった人権教育で大切にしたい視点や、学習を進める上での留意点がとても分かりやすく整理されています。

2章には、「自分と仲間」「働き方と生き方」「偏見と差別」といったテーマごとに、具体的な学習プログラムが20例紹介されており、ワークシートや指導のポイントも豊富です。

別冊となるパート2・3の「人間関係づくり編」と共に大阪府教育センターのホームページで公開されています。また、パート4「キャリア教育編」も近日公開予定とのことです。ぜひ活用下さい。



考えてみよう

わがらなうんぬん

by かわのひでた

おおきな地震（じしん）がきて、おおきな津波（つなみ）がきて、わたしの海沿（うみぞ）いの街（まち）が、冬（ふゆ）の雪（ゆき）空（ゆきぞら）に消（き）えてしまいました。

みんなで、避難所（ひなんじょ）に逃（に）げました。おとなりに住（す）んでいる、おなじ学校（がっこう）、おなじクラスのゆいちゃんも一緒（いっしょ）だよ。わたしも、ゆいちゃんの家（いえ）もなくなりました。で、わたしの家族（かぞく）は助（たす）かりましたが、ゆいちゃんのお母（かあ）さんは、津波に流（なが）されて、亡（な）くなったの。

わたしは車（くるま）イスを使（つか）っているの、避難所では、まわりのみんなが、邪魔（じゃま）になると、イヤな顔（かお）をします。でも、ゆいちゃんは、平気（へいき）な顔で、いつもとおなじように、わたしの車イスを押（お）して、わたしをトイレにつれていってください。避難所には、階段（かいだん）があったり、和式（わしき）のトイレしかなくて、わたしひとりじゃトイレにいけないよ。

今（いま）、わたし、とっても困（こま）っているの。地震のあった日（ひ）から、ゆいちゃんが笑（わら）わなくなってる。わたし、どのように、ゆいちゃんに話（はな）しかけたらいいんかわからないの。お母（かあ）さんがいなくなってしまったんだから、悲（かな）しいんだろうけども。やっと学校（がっこう）が始（はじ）まったから、先生（せんせい）にそのことを話（はな）した。すると先生は、

「うん、先生もね、ゆいちゃんにどんなことを話（はな）しかければいいのかわからなくて、困（こま）っているのよ。でもね、わからないって気持ち（きもち）ちは、とても大切（たいせつ）なことだと思（おも）うのね、わかるうとする気持ち（きもち）が、ううんとふくらむから。先生は、いつか、ゆいちゃんが笑（わら）ってくれるときがくると思（おも）っているから、今は、ゆいちゃんからはなれずに、ずっと待（まち）っているつもりなのよ。」

そうなんだ、だからわたしも、そうするつもり。じっと我慢（がまん）して、ゆいちゃんのそばにいて、待つ。なんでもかんでもわかったつもりじゃ、いけないんだもの。ゆいちゃんは、もっと、きっと我慢（がまん）してるんだもの。



いつか、ゆいちゃんが笑（わら）ってくれる日が、やってくるよ。わたし、その日がくるまで、ゆいちゃんのそばにずっといるの。この冬のつぎには、春（はる）はる（が）かならず、やってくるんだもの。



●あなたの学校は、安全（あんぜん）ですか？
大丈夫（だいじょうぶ）ですか。お家のひとと、話（はな）しましょう。

●自然災害（しぜんさいがい）のことを、ともだちや先生と話し合（わ）いましょう。

●いざというときは、ともだちについて助けあいましょね。